

- 1 地区別組合代表者懇談会を開催！  
PART2（秋田会場）…… 1
- 2 平成22年度  
本会助成事業の活用希望組合を募集！…… 3
- 3 平成21年度  
「中小企業者に関する国等の契約の方針」  
が閣議決定…… 6  
～中小企業者向け官公需契約目標比率が過去最高に～

- 日本列島組合探検隊…… 7
- 景況レポート7月分…… 8
- 話題の広場  
中央会事業より…… 9  
アラカルト…… 9  
インフォメーション…… 10

## SPECIAL FEATURES-1 TOPICS

トピックス

## 1 地区別組合代表者懇談会を開催！ part2（秋田会場）



本会では、6月25日から7月30日まで、県内7地区8会場において地区別組合代表者懇談会を開催し、組合の理事長など計158名が参加した。

今回は、先月号に引き続き、秋田市で開催した工業関係（7/28）及び商業関係（7/30）で出された主な意見・要望等について掲載します。

### 当日出された主な意見・要望

#### 【秋田会場・工業関係（7/28）】

○ 規制緩和（平成8年）以前の水道工事業者は40社程度でしかなかったが、規制緩和以降は300社以上に増えた。業者が増えた分、仕事を受注する機会が少なくなり、個々の営業努力では限界。このような時こそ組合の力が必要となる。（管工事）

○ 国ではエコに対する補助金はあるが、個人

を対象としたものがほとんどであり、企業への補助についても充実してもらいたい。（製麺）

○ 地震大国である日本では、十分に安全性を確保する必要があるため、行政はJIS認定工場の生コンを利用するとともに、抜き打ちによる工場への立ち入り検査等を行ってほしい。（生コン）

○ 生コンは、材料を吟味するとコストがそれなりに上がる。行政には適正単価による発注をお願いしたい。（生コン）

○ 行政は、地元企業への発注を徹底して欲しい。また、価格だけでなく、高校生の採用を積極的に行っている企業に優先的に発注するなど、入札制度を工夫してもらいたい。（建設業）

- 県の公共工事における鳶職人の単価は、かつて1日あたり20,000円であったが、今年は13,700円となっている。これでは職人に払えるお金が1日あたり10,000円程度で、年間収入としては220万円～230万円程度にしかない。鳶職人の単価の底上げをしていただきたい。(鳶土木)
  - 県からの電気工事関係の職人の単価は全国で下から5番目となっている。企業が利益を出せなければ税収が減ることにもつながるので、単価のアップをお願いしたい。(電気工事)
  - 勤務日数の削減や雇用調整助成金の活用等で厳しい状況を凌いでいるが、仕事が増えないことには、借りたお金が余計に首を絞めることになる。行政には、公共事業の増大をお願いしたい。(工業団地)
  - 廃材や間伐材から造られている木質ペレット燃料の普及は、資源の有効活用やCO2削減につながるので、ペレット燃料を県や市町村等の公共施設で活用していただきたい。また、ペレット燃料の普及方法については中央会に相談していただきたい。(木材・木製品製造)
  - 児童数の減少により給食数が減っていることに加え、パン給食が減っており、給食依存型の組合体制から脱却を図って行く必要がある。(パン製造)
- 【秋田会場・商業関係 (7/30)】**
- 街中を歩く人がほとんどいない状況のため、ホテルの前などにタクシーが集中している。他県では遊休地を借りて、「ショットガン方式」により運用しているところもある。中央会の協力を得て、運用を検討していただきたい。(個人タクシー)
  - 最近、空き店舗対策事業で店舗が一つ増えたが、喜んでいたら、以前同事業を利用して入居した店が閉店してしまった。開店してもすぐに閉店してしまうケースが多いと思われるので、出店者の経営についてのサポート等を充実させてもらいたい。(商店街)
  - 市の中心市街地活性化基本計画には、商店街に人を歩かせるしかけがなく、また、中途半端な施設を造ろうとしているように感じられる。街の活性化のため、計画の見直しをお願いしたい。(商店街)
  - 街の活性化は、個人なり1企業の方ではどうしようもない。近隣の商店街とも連携を深めて、イベントを行っていきたいのでイベントに対して支援してもらいたい。(商店街)
  - 商品券組合であるため、供託金を預けているが、供託金額の負担が大きすぎるように感じる。供託金を減らせるような施策がほしい。(商品券)
  - エコポイントが追い風となって売上が伸びているが、組合員の多くは後継者問題を抱えている。今後、小売店が生き延びていくためには、営業の質が非常に重要であり、研修等を開催し、質を上げたい。(電機小売)
  - 30年後までは死亡者が微増すると言われていたが、葬儀が小規模化している。また、葬儀に対する知識が浅くなってきており、昨年、秋田市内で葬祭に関する講座を設けたところ評判が良く、今年も開催することになった。今後は、県内の各ブロックでも同様に開催していきたいので、中央会の力を借りたい。(葬祭)
  - 組合では万が一の自然災害時に備え、お棺の備蓄をしている。災害発生時の対応として、行政と締結を結びたい。(葬祭)
  - 花屋も葬儀の小規模化の影響を受けている他、景気低迷で花の需要が落ちており、販促方法を考える必要がある。また、県南、県北の組合員数が少ないため、メリットを提供し加入してもらえるように、中央会の力を借りて検討していただきたい。(花卉小売)
  - たばこは「蔵出し税」であるため、全国チェーンのコンビニやパチンコ店等では、本社所在地がある場所に税金が落ちている。地方の税収の減少にもつながることであり、業界として、どうにかしなければならない。(たばこ小売)

